

感情代行

レオリオ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

あなたの感情、代行いたします。

目次

— 23 歳女性の場合（発端） — — 1

— 23 歳女性の場合（発端） —

ピピピピッ！ピピピピッ！

「んう…もう朝か…」

重たい瞼を持ち上げ、目を覚ました。

1人暮らしをしている私は朝が弱く、目覚ましなしには起きられない。

パジャマのまま台所へ向かい、朝食を準備する。

朝は簡単にトーストとサラダのみ、手の込んだ朝食を作る気にもならない。

なにより、これから仕事に向かうと思うと

なにもかもやる気をなくすのだ。

トーストをかじりながら昨日の事を思い出した。

「そういえば今日から感情代行してもらうんだっけ…」

口に出して言ってみても返事は返ってこず、なんだか虚しくなった。

朝食を食べ終わるとスーツに着替え、会社へ向かった。

会社へは徒歩で行く…ことにしている。

電車もバスも人が多くて嫌になるからだ。

40分も歩くと会社のビルが見えてきた。

そこまで大きくもない中小企業である勤め先は

わりと街中にあり、朝から車も人も多かった。

「おはようございます」

自分の部署の一室に入ると、返事があるかわからない挨拶をする。

「おはよー」

「おはようございます」

期待していない返事が返ってくる。

そのまま自分のデスクへと座り、今日の仕事内容を確認。

「はあ…」

思わずため息が出る。

どう考えても今日の定時には終わらない。

残業確定であった。

「さっそくストレスだ……あ、忘れてた」

昨日の感情代行にもらった腕時計をつけるのを忘れていた。

「この腕時計型の通信機をつけておいてください。そうすればあなたのストレス等の感情を察知し、我々が代行する事ができます」

そういえばそんなことを言われたんだった。

とりあえずつけておこう。

そして今日も仕事が始まった。

12時のチャイムが鳴る。お昼だ。

お弁当を作らない私は社員食堂へ向かうことにした。

「あれ？今日も食堂？」
「一緒にしてもいいかな？」

「え、ええ、どうぞ」

嫌いな上司だ。めんどくさい。
できれば喋りたくない。
と、思った。

でも、何故か
嫌ではなかった。

プルルツ、プルルツ、ガチャ！

「はい、こちら感情代行…」

「あ、昨日の私です！」

本当に感情代行が成功したのか気になり、お昼もそこそこに感情代行に電話をかけていた。

「あ、どうも、さっそくストレスを察知しましてね、こちらで代行しておきました。ストレスはいかがですか？」

「いえ！全くストレスはありません！本当だったんですね！」

「はっはっは！やつと信じて頂けましたか。その腕時計をつけている限り、あなたの感情を代行いたしますので……」

「はい！ありがとうございます！」

そういうと私は仕事に戻るためにすぐに電話を切った。

本当に感情代行の効果があった！すごい！

しかし、それだけだった。

17:30、定時の時間だ。

朝から残業確定だと思っていた仕事も順調に片付き

なんとか定時に帰ることができそうだ。

「お疲れ様です、今日は定時で帰れそうですね。ご飯でも行きませんか？」
「あ、えっ、いいよ！もちろん！」

密かに好意を寄せている、イケメンの先輩にご飯に誘われた！
嬉しい！すごく嬉しい！
はずなのに

食事の最中、何を話したのかよく覚えていない。

記憶に残らないということは大したことは話していないということか、楽しくなかったか…

虚無感が私を襲った。

そして、あつという間に一ヶ月は過ぎて行つた。
毎日、ストレスを感じず、楽しくもなんともなく
普通の日が毎日続いた。

プルルツ、プルルツ、ガチャ！

「こちら感情代行でございます。その後はいかがでしょうか？」

今日でちょうど一ヶ月、感情代行から電話がかかってきた。

「ああ、どうも」

「ストレスの方は大丈夫でしょうか？」

「ええ、毎日ストレスはありません」

「そうですか、それは良かったです！ところで本日でお試し期間の一ヶ月が終わるので、ここで終了にするなら明日までに腕時計を返しにきて頂き、そのまま返して頂ければ自動的に30000円のコースへ、となりますがよろしいでしょうか？」

「あ、はい、わかりました」

「ではまた、ご利用ありがとうございます」

電話はぷつりと切れた。

今の私は、状況を理解するには感情が足りなかった。

腕時計はつけたままだった。

次の日、私は普通に仕事をして普通に帰宅し、普通に1日を終えた。感情代行は二ヶ月目に突入した。